

武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム 改訂版

国語編



平成24年5月

武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会

国語部会

はじめに

本報告書は、平成21年3月に作成した「武蔵村山市小・中一貫教育カリキュラム 国語編」をもとに、学習指導要領の完全実施に当たって、本市で新たに採択された小・中学校の教科書の内容を踏まえて、「同カリキュラム改訂版 国語編」として取りまとめたものです。

本報告書を作成するに当たっては、平成22年4月に東京都多摩地区初の施設一体型小中一貫校として開校した、村山学園（市立第四小学校及び市立第二中学校）の教員だけではなく、市内各校から国語科教員又は国語科を中心に研究活動を行っている教員、あるいはこれから国語科を研究していくことを希望する教員が、市教育委員会からの委嘱を受けて、平成22年度・23年度の2か年にわたり、まさに手づくりで作成したものです。

国語部会の組織目標は、大きく3点あります。

- 小中一貫教育の国語科年間指導計画を改訂すること
- 小中一貫教育の国語科指導内容系統一覧を改訂すること
- 小中一貫教育の視点に基づき、基本カリキュラムの4重点（言語力育成、情報リテラシー育成、キャリア教育、心の教育）の検証授業を充実すること

これらの組織目標の達成を目指して取り組みました。

成果としては以下の3点が挙げられます。

1点目は、本市における小中連携教育の普及啓発を図ることができたということです。各教員は、小学校と中学校という校種の垣根を乗り越えて、子供たちの発達段階の違いに改めて着目しました。また、小学校の教員は、小学校での指導が中学校の学習にどのように結び付いているかということに気付いたり、中学校の教員は、小学校低学年の子供たちの学習の進め方を具体的に知ったりする中で、小・中教員が互いの指導観、教材観、授業観、子供観の転換を図ることができました。特に、検証授業の学習指導案の検討を通じた協議の際に、あるいは検証授業の児童・生徒の学びの様子から、そのことを実感することが多くありました。

2点目は、国語科のカリキュラムの改訂に当たり、村山学園以外の小・中学校の教員がそれぞれの学校において検証授業を行うことで、小・中教員間の日常的なつながり、連携の必要性の確認、情報交換、共通認識等が図られるとともに、本市の目指す小中一貫教育・小中連携教育を一層推進することができたということです。

3点目は、基本カリキュラム4重点（「言語力育成」「情報リテラシー育成」「キャリア教育」「心の教育」）に基づく検証授業をすべて実践できたことです。平成20年度に作成した「武蔵村山市小・中一貫教育カリキュラム 国語編」では、「言語力育成」に基づく検証授業を2回実施しましたが、本報告書では、新たに「情報リテラシー育成」「キャリア教育」「心の教育」を加え、検証授業の実践事例の充実を図ることができました。

本市の小中一貫教育は途についたばかりですが、大切なことは、市内各校が今後、学習指導要領を踏まえた上で、自校に合った国語科のカリキュラムを作っていくことです。そのとき、本報告書が村山学園だけではなく、市内各小・中学校で行う小中連携教育の推進に当たり、参考となることを願ってやみません。

最後になりますが、2年間を通じて懇切丁寧な御指導を賜りました、国士舘大学准教授の井上善弘先生、貴重な研鑽の機会をくださいました本市教育長の持田浩志先生に心より感謝申し上げます。

平成24年5月31日

武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会

国語部会 部会長 牧 一彦
(第八小学校 校長)

目 次

はじめに	1
1 本市の子供たちに育てたい国語の力	6
2 本市の小中一貫教育における学年区分について	6
3 小中一貫教育における国語の重点指導項目	7
4 武蔵村山市小中一貫教育 国語科指導内容系統一覧表	8
A 話すこと・聞くこと 8	B 書くこと 10
C 読むこと 12	D 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 14
5 武蔵村山市小中一貫教育 国語科年間指導計画	16
6 武蔵村山市小中一貫教育 4つの基本カリキュラム	24
(1) 人間力育成に着目し、教科横断的に取り扱う4つの基本カリキュラム	24
7 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 言語力育成	24
(1) 言語力育成カリキュラムをどう捉えるか	24
(2) 国語における言語力育成	25
(3) 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 「言語力育成」学習内容一覧	26
言語力育成場面シラバス1 第6学年 「本の世界を広げよう」夢に向かってーモンゴメリー伝記ー	28
言語力育成場面シラバス2 第6学年 「詩を読もう」短歌と俳句	30

言語力育成場面シラバス3 第8学年 「心を開く」春に 32

言語力育成場面シラバス4 第9学年 「豊かなことば」俳句の可能性 34

8 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 情報リテラシー育成 ……36

(1) 情報リテラシー育成カリキュラムをどう捉えるか 36

(2) 国語における情報リテラシー育成 37

(3) 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 「情報リテラシー育成」学習内容一覧 38

情報リテラシー育成場面シラバス1 第3学年 「調べたことをつたえよう」合図としるし 40

情報リテラシー育成場面シラバス2 第6学年 「メディアを学ぶ」ニュースを読み解こう 42

情報リテラシー育成場面シラバス3 第8学年 「真実をさぐる」人物紹介パンフレットを作ろう 44

情報リテラシー育成場面シラバス4 第9学年 「社会をとらえる」メディア社会に生きる 46

9 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム キャリア教育 ……48

(1) キャリア教育カリキュラムをどう捉えるか 48

(2) 国語におけるキャリア教育 48

(3) 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 「キャリア教育」学習内容一覧 50

キャリア教育場面シラバス1 第4学年 「情景を思い浮かべながら読もう」白いぼうし 52

キャリア教育場面シラバス2 第6学年 「本の世界を広げよう」夢に向かってーモンゴメリー伝記ー 54

キャリア教育場面シラバス3 第7学年 「自分を見つめる」体験を伝え合おう 56

キャリア教育場面シラバス4 第9学年 「本の世界を広げよう」炎をみろー赤き城の伝説 58

10 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 心の教育 ……60

(1) 心の教育カリキュラムをどう捉えるか 60

(2) 国語における心の教育 60

(3) 武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム 「心の教育」学習内容一覧 62

心の教育場面シラバス1	第2学年	「むかし話を読もう」かきこじぞう	64
心の教育場面シラバス2	第6学年	「共に生きる」アジアを見つめる、アジアから考える	66
心の教育場面シラバス3	第8学年	「本の世界を広げよう」セフラ	68
心の教育場面シラバス4	第9学年	「状況に生きる」故郷	70

1 1 検証授業1 第5学年 言語力育成「文語の言葉のひびきを味わおう」…72

平成20年10月30日 武蔵村山市立第四小学校5年1組 授業者 山田 京子

学習指導案 授業記録 協議会記録 成果と授業改善の視点

1 2 検証授業2 第7学年 言語力育成「心の歩み」 ……85

平成20年9月12日 武蔵村山市立第二中学校1年1組 授業者 熊谷 浩平

学習指導案 授業記録 協議会記録 成果と授業改善の視点

1 3 検証授業3 第3学年 情報リテラシー育成「くらしを見つめて」 ……97

平成22年11月2日 武蔵村山市立小中一貫校村山学園小学部3年2組

授業者 櫻井 愛美

学習指導案 授業記録 協議会記録 成果と授業改善の視点

1 4 検証授業4 第9学年 キャリア育成「話し合っって考えを深めよう」 ……113

平成22年9月21日 武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部9年1組

授業者 並木 由香里

学習指導案 授業記録 協議会記録 成果と授業改善の視点

1 5 検証授業5 第1学年 心の教育「心の歩み」 ……135

平成23年10月4日 武蔵村山市立第三中学校1年1組 授業者 田中 森恵

学習指導案 授業記録 協議会記録 成果と授業改善の視点

資 料	151
武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会設置要綱	152
武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会組織図	154
武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会国語部会検討経過	155
武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会国語部会名簿	156
武蔵村山市小中一貫教育カリキュラム改訂委員会国語部会指導助言者	156

武蔵村山市小中一貫教育 基本カリキュラム（4重点）の場面シラバス及び検証授業1・2の内容は、「平成20年度 武蔵村山市立小・中一貫校カリキュラム作成等委員会 各教科等部会」において作成したものです。

1 本市の子供たちに育てたい国語の力

本市の小中一貫教育は、文部科学省学習指導要領に準拠した教育課程で行うため、国語で育てたい力は、学習指導要領に明示されている目標と大きく異なるものではない。その前提に立って、国語部会では部会員の所属校で把握している児童・生徒の実態を検討し、義務教育9年間で特に本市の子供たちに育てたい国語の力とは何かについて検討した。

それは、私たち教師が、国語の時間に児童・生徒にどんな力を高め、育てていくのか明確にした上で授業に臨むことは、極めて重要であると考えたからである。

本報告書で提言する本市の子供たちに育てたい国語の力は、確定されたもの、あるいは限定されたものではない。小学校と中学校という校種の垣根を越えて、「国語」の授業をどう作っていくか、一体型小中一貫校のみならず、各中学校区ごとに進めていく小中連携教育において、児童・生徒に育てたい国語の力を各校が設定する際の基底資料となるものである。

本市の子供たちに育てたい国語の力

- 適切な言葉で筋道を考えながら最後まで話す力と、目的や意図に応じて正しく話を聞く力
- 話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりする力
- 自分の考えを明確にし、文章全体の構成や表現を工夫して書く力
- 言葉に着目して、それを根拠として自分の考えをもち、深く読み取る力
- 言葉に関心をもつとともに、言語感覚を豊かにし、適切に活用する力
- 我が国の伝統的な言語文化に親しみ、国語を尊重しようとする態度

【学習指導要領における国語の目標】

平成20年3月告示 小学校学習指導要領第2章各教科第1節 国語 第1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

平成20年3月告示 中学校学習指導要領第2章各教科第1節 国語 第1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 本市の小中一貫教育における学年区分について

平成20年3月公表の「武蔵村山市立小・中一貫校カリキュラム作成委員会報告書」によれば、本市の小中一貫教育における学年区分は3つに分かれている。

第1学年から第4学年の4学年を「低学年部」とする。低学年部を「学習基礎定着期」として捉え、「学習習慣を確立する基盤となる情緒を育むとともに、基礎的・基本的内容を繰り返し徹底して習熟を図る反復期」とする。

第5学年から第7学年の3学年を「中学年部」とする。中学年部は「学習充実期」として捉え、「学習に対する意欲を高め、学習習慣の確立を図るとともに、習得した基礎的・基本的内容を用いて、論理的思考力、判断力、表現力を養う活用期」とする。

第8学年と第9学年の2学年を「高学年部」とする。高学年部は「学習発展期」として捉え、「自ら学習に取り組む姿勢を重視するとともに、習得した基礎的・基本的内容を応用したり、身に付けた能力を活用したりして、個性の伸長を図る発展期」とする。

本市の子供たちに育てたい国語の力は、義務教育修了時にどの生徒にも身に付けさせたい到達目標ともいえるが、各発達段階ごとに重点的に指導すべき内容について、上記3区分に従って「小中一貫教育における国語の重点指導項目」として次項のようにまとめた。

3 小中一貫教育における国語の重点指導項目

表中の番号は相互に関連している。

発達段階	重点指導項目	
低学年部（1年生から4年生）	学習基礎定着期	<ol style="list-style-type: none"> 1 関心のあることから話題を決め、相手に伝わるように筋道を立て、適切な言葉遣いで話すこと。 2 自分が知りたいことや話の中心を落とさないように話を聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 3 話題に関して自分の考えをもつとともに、互いの考えを比べながら、話し合うこと。 4 書きたいことをはっきりさせて、段落のつながりに気を付けながら書くこと。 5 人物の言動や心情、場面の情景や移り変わりなどについて叙述を基に想像しながら読んだり、中心となる語や文を捉えて要点を抑えながら事実や意見との関係を考えながら読んだりすること。 6 作品を読んで、思ったことや考えたことを発表すること。 7 表現や理解に必要な言葉を人に聞いたり辞書で調べたりしながら増やすこと。 8 第3学年までの漢字を正確に書くとともに、第4学年までの漢字を読むこと。
中学年部（5年生から7年生）	学習充実期	<ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活の中から話題を決め、考えたことや自分の意図、気持ちが相手に伝わるように、適切な言葉を選びながら話の構成を工夫して話すこと。 2 聞く目的を明確にして、話し手の意図を考え、自分の意見と比べながら話を聞くこと。 3 互いの立場や意図を明確にしなが、考えをまとめるように話し合うこと。 4 伝えたいことや自分の考え、気持ちをはっきりさせて、それらが読み手に伝わるように文章全体の構成の効果を考えながら書くこと。 5 人物の心情や場面の情景を効果的に表している叙述や中心となる文や段落を捉えて、主題や要旨を考えながら読むこと。 6 作品の主題や要旨に対する自分の考えを明確にしなが読み、発表すること。 7 表現や理解に必要な言葉を辞書で調べたり読書を通して獲得したりしながら、それらを場面に応じて適切に活用すること。 8 第6学年までの漢字を正確に書き、文章中で使うとともに、常用漢字300字を読むこと。 9 親しみやすい文語調の文章について、内容の大体を知り、音読したり鑑賞したりすること。
高学年部（8年生・9年生）	学習発展期	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活の中から話題を決め、自分の考えを整理して、説得力のある話をする事。 2 内容や表現を評価し、ものの見方や考え方を深めたり表現に生かしたりするように聞くこと。 3 立場や考えを尊重し、互いの発言を検討しながら効果的な進行を工夫して、解決に向けて話し合うこと。 4 自分の立場や伝えたい事実・事柄を明確にした上で、それらが読み手に伝わるように根拠を明らかにし、論理展開を工夫しながら書くこと。 5 書き手の論理展開や表現の仕方、文章の特徴を捉え、主題や要旨を把握しながら読むこと。 6 作品の主題や筆者の主張に対する自分の考えを明確にもったり、意見を述べたりすること。 7 抽象的な概念などを表す多様な語句について理解を深め、意味・用法に注意しながら、適切に活用すること。 8 学年別漢字配当表1006字を正確に書き、文や文章の中で使うとともに、常用漢字のたいたいを読むこと。